

「ワルキューレ」公演へのお誘い

ワグネリアン**感染**・潜伏期間中の皆様へ

文：田辺とおる（あらかわバイロイト公演監督）

昨年五月に旗揚げした「ワグナー音楽祭あらかわバイロイト」の第二回目が近づきました。オペラ公演は二回目ですが、秋に「タンホイザー」と「ワルキューレ」の抜粋を軸にしたガラコンサートを開催しましたので、指揮者クリスティアン・ハンマーが振るワグナー公演は三回目になります。年間数百公演をこなすドイツの劇場音楽監督を長年務めたベテランで、昨年その指導力が如何なく発揮されました。今年四月二十三〜二十五日に「ワルキューレ」を、三組のキャスト総勢四十二人で三日連続公演致します。日本オペラ界のトップを走るベテランからコンクール入賞の新人まで、また実績ある歌手の話題の挑戦にも、十八番の得意役の再演にも事欠きません。

当初、第二回公演には「トリスタンとイゾルデ」を取り上げると発表しましたが、一年延期して「ワルキューレ」に差し替えました。なにしろ育成過程の音楽祭ですから、すべてが試行錯誤です。ワグナーのオペラといえれば海外劇場の来日か、新国立劇場や二期会などの大手か、もしくはオーケストラ主催の（半）演奏会形式公演に限られると、いい日本オペラ界。その中

★ ★ ★

にあつて、「市民オペラ」の規模でワグナー連続公演を目指していますので、正真正銘の五里霧中、無我夢中です。知らない夜道をナビなしで、軽自動車ガブッ飛ばしているようなものです。市民オペラといえれば普通は「カルメン」や「フィガロの結婚」といった有名作品をやっているのですから。

四日かかりの世界最長のオペラ、楽劇「ニーベルングの指輪」は、本来ならば全作を通し公演するべきですが、「あらかわバイロイト」にとつてそれは、将来の夢です。夢への第一歩として、第一夜（実際には序夜につづく二日目）「ワルキューレ」を選びました。抜き読み、という奴です。「忠臣蔵七段目一カ茶屋」であります。

「ワルキューレ」はヨーロッパの劇場で単独公演されることも多い人気作です。兄妹の近親相姦という不条理、愛娘との別れなど、せつなさ・やるせなさが基調になっているため、メロドラマのトーンが強調された異色の作品ともいえるでしょう。それでいて、一番有名なナンバーが「ワルキューレの騎行」。映画やコマースシャルにも数多く使われている、「勇壮で格好良い」ワグナーの代名詞です。ワグナーという人は本当に作劇の匙加減が上手い。硬軟取り混ぜて変化に富んだ劇が展開していきます。

★ ★ ★

ところで、ワグナー音楽なる麻薬は強度の中毒・禁断症状を伴い、その患者を「ワグネリアン」と申します。

約百五十年前に中部ドイツのザクセン地方で始まった流行は、新型インフルエンザの感染力はないもののジワジワと世界中に飛び火して、我が国では明治の文豪森鴎外がドイツ留学中に罹患したことを嚆矢に、現在相当数の患者が報告されています。そこで、あなたの感染テストを致しましょう。

【感染の有無】ワグナーの曲はテレビCMにも汎用されるほどキャッチーなので、十秒聞いて「オッ、カッコイイ！」と思つたら感染の疑いあり。

【潜伏期間】自主的には聞かないが、街中・CDショップ・テレビなどでワグナーが耳に入るとつい立ち止まる。

【初期症状】前奏曲などの有名曲がオケのプログラムに入っていると喜ぶ。

【中期症状】CD・DVD・実演などでオペラ全曲を体験し、長すぎるから居眠りはするもののワグナーサウンドに陶酔し、終演後二日以上耳の中で曲が鳴る。

【重症初期】伝記を読み、その自己中心的な生涯に驚くものの「こんな名作を残したのだから、ま、イツカ」と思つ。対訳台本や楽譜、ライトモチーフ集も参照して、次第にオペラ全曲が面白くなってくる。

【重症中期】三十個以上のモチーフを覚え、聞き分けられる。対訳では飽き足らずドイツ語歌詞を読み始める。歌手が暗譜に苦労する、あの「ワグナー語」といわれる独特の文体、とりわけ単語の頭のシラブルを揃える頭韻の連

射がやけに心地よくなる。
【重症盛期】ワグナー自身がバイロイトで上演してはならん、と封じた初期三作の「妖精」「恋愛禁制」「リエンツィ」にまで詳しくなる。

【最重症患者】ラインの娘三人およびワルキューレ姉妹八人の名前と語源、「ラインの黄金」の神様七人の名前と担当分野、「タンホイザー」の吟遊詩人六人のフルネーム、「マイスタージンガー」の親方衆十二人のフルネームと職業などがスラスラ言えるようになる！！

★ ★ ★

この感染に有効なタミフルは目下のところまだ開発されていません。それでは、サンパール荒川大ホールでお待ち申し上げております。



田辺とおる

ドイツの「北ハルツ劇場」専属歌手としてオペラからミュージカルまで出演した後、ベルリンで俳優業にも活動を広げる。映画「ラストサムライ」では渡辺謙の声を吹き替え（独・仏・西語）・ドラマ・CM・ベルリン・シェークスピアカンパニー「十二夜」などに出演。2000年以降は新国立劇場をはじめ、日本のオペラにも多く出演し、モーツァルト・ワグナー・Rシュトラウス・ドニゼッティ・ロッシーニ・ヴェルディ・プッチーニなどの諸作品で好評を博した。NHK音楽番組からバラエティーまでテレビ出演も多い他、雑誌連載や楽譜編集でも健筆を揮う。国立音楽大学講師。東京二期会会員。 www.tanabe.de